

開催報告

2025年度 JAくらしの活動 (生活文化活動) 担当者パワーアップ研修会

昨年度に引き続き今年度も家の光協会とJA全中の共催で、JA生活文化活動担当者を対象に東日本会場は9月2日～3日に東京都で、西日本会場は9月9日～10日に岡山県で開催しました。両会場合わせて59 JA・中央会より、112名の参加をいただき、盛会裏に終了いたしました。研修会プログラムの中から、課題提起、基調報告、2 JAからの実践報告、活用講習、特別報告、研修のまとめについてご報告します。



主催／一般社団法人 家の光協会
一般社団法人 全国農業協同組合中央会
後援／全国共済農業協同組合連合会

担当者の提案からはじまる JAファンづくり

佐久間幸子 家の光専門講師

組合員高齢化や農業従事者減少といった農業・農村の現状。正・准組合員の逆転、組合員総数の減少傾向、JAの広域化、支店・出張所の減少、女性組織メンバー減少といったJAの現状。そして、事業総利益の減少傾向、事業管理費削減による事業利益確保が限界を迎えつつあるというJA経営の現状。これらを踏まえて、JAは組織基盤を強化するための方策が必要不可欠です。



そのために「活動」は重要な手段であり、JAくらしの活動・生活文化活動はこれまで以上に重要な役割を担うことになります。活動は組合員や地域住民との継続的な関係を築き、JA事業利用や組織活動への参加につなげていく「入り口」です。また、准組合員や地域住民と接点を持つ仕掛けがファンづくりや仲間づくりに直結し、活動と事業の好循環を生み出していきます。担当者一人ひとりの提案力や現場での行動が、組織全体の活力に波及します。自分たちの担当する活動が地域の未来を支えるものであるという使命感をもって取り組んでいきましょう。

基調報告 I

第30回JA全国大会決議の 実践に向けて

佐々木 悠

JA全中 JA組織・経営対策部 JA組織基盤対策課 課長

JAの組織基盤強化に向けては、まずは多様化する組合員の現状とニーズを把握することが大事です。全中で提供している組合員メンバーシップアンケートの結果から、販売をしていない正組合員との関わりが薄くなってしまっていること、JAに親し



みを感じる准組合員とうまく関わりが作れていないことなどの課題が見えてきました。「組合員のJ A離れ」とよく言われますが、役職員が組合員を“お客様”扱いして、組合員から離れている側面がないでしょうか。お客様化すれば、きっかけがあれば利用流出や機会損失のリスクが高まってしまいます。組織基盤強化のためには、J Aのファンになってもらい、組合員との関係性を強化していくのが重要です。組合員とつながり、J Aの次世代につながる種まきができるのは、普段の業務から組合員と関わる営農や生活担当職員の皆さんです。組合員との会話・接点から把握した組合員のニーズ・困りごとの内容を事業推進部門に繋げていくことでJ Aの強みを活かせると思います。

第30回J A全国大会決議では、5つの戦略を提起しましたが、組織基盤強化戦略(J A仲間づくり戦略)を重要な取り組みと位置づけました。それは組織基盤、つまり組合員がすべての基本だからです。組合員が結集し、活動参加と事業利用が相互に作用することでJ A経営の安定にもつながります。協同活動と総合事業の好循環の実践を通じた、J Aの強みを活かした組織基盤強化に取り組んでいきましょう。

基調報告Ⅱ

教育文化活動促進と 家の光普及活用運動について

西日本会場 熊田陽介 家の光協会 普及文化本部 本部長
東日本会場 久保野剛 家の光協会 普及文化本部 副本部長

『家の光』は創刊100周年を迎えましたが、協同の心を組合員に培うという創刊からの役割は今も変わっていません。この役割を担うために、家の光協会は「J Aファンづくり検討委員会」と「J A女性組織仲間づくり検討委員会」という2つの検討委員会を立ち上げ、その内容を報告書にまとめました。一部を抜粋して報告します。



J A ファンづくり検討委員会では、ファンづくり実践のために対象者をセグメントに分けて明確化しました。そして、ファンづくりの対象を7つの区分に分けて、それぞれへのアプローチ方法を提案しています。J A 女性組織仲間づくり検討委員会ではこれからの女性組織として、従来のピラミッド型組織からフラットな目的別組織への転換の提案、女性組織の存在価値の再認識と向上の重要性といった方向性が示されました。

そして、これからのファンづくりの対象となるすべての属性の方に関心のあるテーマが「防災・減災」です。今年度の『家の光』12月号では、この「防災・減災」をテーマとして特集記事・別冊付録を制作しています。『家の光』12月号を活用した各種防災セミナーの開催を是非企画し、J A ファンづくり、女性組織仲間づくりにつなげていただければと思います。

実践報告 I

小さな一歩から始まる 女性部の未来づくり ～できることから始める仲間づくりと次世代へのバトン～

落合 恵美子 J A あつぎ 組織文化部 次長

これまで18年間、女性部員の高齢化と減少という大きな課題に取り組んできました。まず、課題解決のための方策を①次世代層の積極的な加入促進と②既存女性部への新規加入の2つの柱に整理しました。そして、次世代層の積極的な加入促進として「P T A 出前授業」「フレミズ会員制度」「女性大学の開講」「ふるさと先生・食とくらしのマイスター」「こどもグリーンだより発行」といった方策に取り組みました。また、既存の女性部への新規加入を促進する方策として「女性部活性化委員会の設置」「次世代部の設置」「目的別グループの立ち上げ」「一部会一人増員運動の実施」「女性部紹介パンフレットの作成」「女性部座談会」「女性部ふれあい体験仮入部制度」という方策に取り組んできました。

どうしたら部員が増えるのか、どうしたら次の世代へと活動をつなげていけるのか、振り返れば多くの活動に取り組みましたが、始めたときには、「まずは自分にできることから始めよう」と小さな一歩から踏み出してきました。これからもできることから始める仲間づくりを大切に組みこんでいきたいと思っています。



地域によろこびの種をまく ～「くらしの活動」からはじまるJAファンづくり～

片岡 萌 JA岡山 経済部生活課

JA岡山は「豊かで暮らしやすい地域社会の実現」に向けて、「くらしの活動」を展開しています。推進にあたっては、①食農教育の実践、②支所等を拠点とした「場」の設定、③女性のJA運営参画を掲げています。これらの実践にあたっては女性部との連携は欠かせません。また、次世代対策として、フレミズ間の情報共有や女性部活動への理解促進のための「フレッシュミズ交流会」の開催、JAと女性部が連携して地産地消の理解促進と消費拡大をすすめるための「JA岡山地域内交流会」の実施、行政と協力する「男女共同参画のつどい in 岡山」の開催、「家の光大会～記事活用体験発表～」の実施、「親子料理教室・ちゃぐりんフェスタ」の開催、地域住民向け食農教育イベントの「家族でチャレンジ！デイキャンプ」の開催等、多くの活動を女性部とともに実施しています。



令和6年度は女性部の提案から始めた新たな取り組みとして、JA岡山管内を4エリアに分け、エリア内の女性部員・支所・営農センター職員が協力して「防災イベント」などの地域活性化イベントを実施しました。活動を通じて、女性部だけでなく部署間の横のつながりの強化にも結びつきました。

活用講習

「防災セミナーの開き方」について 「JAサテライト プラス」体験

2日目の冒頭には、「防災セミナーの開き方」が紹介されました。『家の光』12月号と別冊付録をテキストとして、防災食料理教室、防災クイズ、防災ボトルづくり、防災手芸教室など、地域住民や女性組織を対象にすぐに展開できる5つのセミナープログラムが示されました。体験型で楽しく学べる内容に参加者の関心は高く、早速12月号を活用してJAで取り組みたいとの声も上がりました。

続いて実施された「JAサテライト プラス」体験では、家の光協会が新たに開

発した動画と体験キットを組み合わせた講座を体験しました。あらゆる世代を対象に、J Aに来なければできない体験を提供する仕組みが紹介され、参加者は実際に体験キットを手にしながら効果を実感しました。このプログラムは、J Aと地域住民との継続的な接点をつくり出す仕掛けとして期待されています。



特別報告

次世代と地域をつなぐライフプランセミナー

福原 正恵

J A 晴れの国岡山 真庭基幹アグリセンター 営農課 課長代理

令和6年3月に開催した真庭地区のフレッシュミズ世代を対象とした「ライフプランセミナー」についてお話をさせていただきます。フレッシュミズ部会は真庭地区女性部で唯一部員が増加している部会です。J Aの遊休施設を再利用して、女性部長が運営するカフェに来店した若いママさんグループに、フレミズ活動を紹介したことで一気に13名が加入しました。このフレミズ部会を対象にライフプラン作成を通じてJ Aとの新しいつながりを築くことを狙いました。ケーキやコーヒーを用意したカフェ形式で開催し、参加者がリラックスして将来設計を考えられるよう工夫しました。J A 渉外担当者との接点づくりも目的として開催し、J A 事業の理解促進や利用拡大にもつながりました。そして、セミナーを通じて、参加した渉外担当者に生活担当者の仕事を理解してもらうことにもつながりました。



ライフプランセミナーに手ごたえを感じた私は、L Aと一緒に『ちゃぐりん』8

月号をフレミズ全部員へ配付し、同時にＪＡのＰＲをするという活動も実施。ＬＡからは自動車共済やこども共済契約の実績獲得につながり、なにより担当地区の若い方との接点を持てたことに感謝の言葉をもらいました。

ま と め

佐久間 幸子 家の光専門講師

ＪＡくらしの活動・生活文化活動はＪＡの生命線であり、組合員と地域に寄り添う姿勢を持ち続けることが未来につながります。活動を通じた接点づくりが、組合員の愛着を育み、事業利用へと波及する好循環を生み出すことになるでしょう。今研修会で紹介された事例や活動の学びをＪＡに戻って生かしてください。すべての属性と年代で関心の高い防災をテーマとしたセミナーの開催、「ＪＡサテライト プラス」の活用、ライフプランセミナーなどは、今後の活動を広げる上で大きな武器となるでしょう。そして、担当者一人ひとりの持つ提案力と現場力を高めることが、組織基盤と経営基盤を強化する第一歩となります。